

まちづくり交付金 事後評価シート
拾生・松山地区

平成21年11月

奈良県宇陀市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県		市町村名	宇陀市		地区名	拾生・松山		面積	328ha			
交付期間	平成17年度～21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	1,325百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 地域生活基盤施設(緑地・広場、地域防災施設) 高質空間形成施設(照明施設、歩行支援施設(公衆トイレ・携帯ナビゲーション)) 高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	まちづくり活動推進事業(ホームページ作成、グリーンツーリズム、観光パンフレット、夏まつり補助金、心の森イルミネーション、指導者育成)、事業活用調査										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 高質空間形成施設(せせらぎ足湯施設)、地域生活基盤施設(駐車場)					削除/追加の理由 用地交渉が難航したためと県事業により駐車場が整備された。		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	NPO助成事業					福祉作業所NPO助成の予定が合併により施設集約され不要となった。		福祉作業所のNPOボランティアがなくなり大きく減少した。		
				郷土料理創作事業					商工会事業として取り組むこととなった。				
				桜まつり補助事業					合併により市観光協会で行うこととなった。				
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	温泉施設改良増築事業 事業活用調査					平成18年度指定管理者制度導入のために増改築が必要となった。 事後評価シート作成が必要となった。					
	交付期間の変更	当初	平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	道の駅『宇陀路大宇陀』の来場者数	人	350,000	H17	400,000	H21		407,193	○	あり なし	道の駅を交流拠点とする「心の森総合福祉公園」が充実するなど利用機会が増えた。	平成22年4月予定
	指標2	都市と農村の交流者数	人	0	H17	200	H21		230	○	あり なし	観光ホームページ等を活用した交流機会のよびかけ手段が充実した。	平成22年4月予定
	指標3	おおだ温泉『あきののゆ』来場者数	人	140,000	H17	180,000	H21		189,999	○	あり なし	増改築事業により、運営充実を図ることができた。	平成22年4月予定
	指標4	イベント実施による参加人数	人	700	H17	2,000	H21		1,340	×	あり なし	毎年参加者数は増えているが、目標絶対数まで至らなかった。	平成22年4月予定
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	イベント実施によるボランティア参加実人数	人	263	H17	467	H21		470			参加実人数を参加名簿からみたとところ平成21年度目標467人に対して、評価値は目標を上回っており、着実に参加者は増えている。	平成22年4月予定
	その他の数値指標2												
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況	・本地区のまちづくりの出発は松山まちなみ地区の重要伝統的建造物保存地区指定と街なみ環境整備事業であり、そのまちづくり過程で担い手が育っている。松山まちなみ地区のまちづくりの担い手の影響を受け、ハード整備とイベント事業が並行して進められたことにより、ボランティア参加が拡大した。 ・今後は増えたイベントボランティア参加者が本地区のまちづくり、まちおこしの担い手として活躍できる機会をつくり、イベント事業の継続を図っていく。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
			住民参加プロセス	夏まつり補助事業、心の森イルミネーション事業の実施に際しては実行委員会をもうけ、住民参加による企画実施を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後ともイベント及び住民参加方式を継続していく
	持続的なまちづくり体制の構築		夏まつり補助事業、心の森イルミネーション事業のイベントの担い手としてボランティア参加を求める実行委員会をもうけた。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	イベント等の実行委員会方式は継続させ、さらに広場緑地を維持管理する関連者、関連団体による組織をもうけていく	

様式2-2 地区の概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値	
○自然と歴史を活用し住民との協働による、住みやすさと住みがいのあるまちづくりの推進		道の駅『宇陀路大宇陀』の来場者数		単位：人	350,000	H17	400,000
①歴史資産を活用した中心市街地の賑わいの再生		都市と農村の交流者数		単位：人	0	H17	200
②誰もが安心して快適に暮らせる生活環境の創出		おおうだ温泉『あきののゆ』来場者数		単位：人	140,000	H17	180,000
「心の森総合福祉公園」は住民の福祉向上の場であり、住民が集い、交流する場である。		イベント実施による参加人数		単位：人	700	H17	2,000
住民の安心で快適な生活環境を整備することにより、生活の質の向上をめざす。		イベント実施によるボランティア参加人数		単位：人	263	H17	467
③観光資源を活用した交流促進による地域の活性化							
松山まちなみ地区と心の森総合福祉公園（あきののゆ）、遊休地活用のグリーンツーリズムそしてこれらの核となる道の駅との交流促進ネットワークを充実させ、地域活性化に向けた公民協働のまちづくりを推し進める。							

The map illustrates the Matsuyama Machinami Area, highlighting key locations and planned projects. Key features include:

- Main Projects (Yellow boxes):**
 - High-quality space formation facilities (歩行者支援施設) with mobile phone charging stations.
 - Advanced city facilities (地域交流センター).
 - Local life base (緑地、広場) at the heart of the forest comprehensive welfare park.
 - High-quality space formation facilities (照明施設).
 - High-quality space formation facilities (歩行支援施設) including public toilets.
- Proposed Projects (Blue boxes):**
 - Machi-zukuri activity promotion project (Green Tourism Project).
 - Machi-zukuri activity promotion project (Summer festival support project).
 - Local creation support project (Hot spring facility improvement construction project).
 - Machi-zukuri activity promotion project (Heart of Forest Comprehensive Welfare Park).
 - Local life base (Disaster prevention facility) including flood-resistant water tanks.
- Legend:**
 - Base project (Yellow box)
 - Proposal project (Blue box)
- Scale and Orientation:** Includes a north arrow and scale bars (0-100m, 0-500m, 0-1000m).

まちの課題の変化

・道の駅、松山まちなみ地区、あきののゆ、収穫体験等の人の流れとつながりができあがりつつあるが、地場産品や地場農産品の担い手育成の課題もあり、それらも含めたまちづくりの方向を総合的に検討していく必要がある。
 ・心の森総合福祉公園の核として広場緑地が整備されているが、すでにイベントなどを通じて広場緑地は十分機能していくことが見込まれている。今後は恒常的に広場緑地を利活用することや広場緑地の維持管理についての検討が必要となっている。
 ・イベントボランティアに参加する人は順調に増えている。増えたボランティアを定着させ、まちづくりの担い手として育成していく必要がある。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

・道の駅、松山まちなみ地区、あきののゆ、収穫体験等のつながりを強め、季節の見どころ、イベント、薬草料理等の食文化等の情報をホームページや雑誌取材等を通じて情報発信する。また、心の森総合福祉公園及び周辺地区の利活用（ソフト）計画を策定し、恒常的な利活用を検討する。ボランティアを定着させ、まちづくりの担い手としていくために、ボランティア実践を支える研修体制づくりに取り組む。
 ・改善すべき点について、農産物、特産品開発の後継者不足に対応するために薬草料理のブランド向上や食文化おこしに取り組み「食育」活動と並行して人材育成に取り組む。心の森総合福祉公園の維持管理のしくみをつくっていく。ボランティア参加促進のためのまちづくり研修の場ももうけていく。人が集まる拠点づくりが進みそれらの有機的につながりが求められているが、「かぎろひを観る会」の活動にみられるように「あきのの自然、歴史に親しむとともに朝風呂に入り、葛料理を楽しむ」というように本地区でしか味わえない（オンリーワン）交流体験ができる方向をめざしていく。